

2019年草木染塾 1月講座

【開催日】 2019年1月21日(月曜日)

【場所】 川崎市黒川青少年野外センター

【実施概要】 スギの葉、ソヨゴ、ウメ剪定枝での木綿布縫い締め絞りと抜染用木綿染め、シルク染め

【公開記事】

今回の講座ではスギの葉、ソヨゴの枝葉を使用することになっていましたが、梅の剪定枝も手に入ったので使い、3種類の染液を使って木綿とシルクを染めました。

- ① 染液作り
- | | | |
|-------|-------|------|
| ソヨゴ枝葉 | 600g | 水8ℓ |
| スギの葉 | A750g | 水15ℓ |
| | B 1kg | 水12ℓ |
| ウメ | 約500g | 水5ℓ |

これを火にかけて染液を作ります。

ソヨゴの染液 一度目に煮出したものは濁った赤色をしていたのですが、2番、3番と煮出していくと澄んだ赤色の染液が取れました。

講師のお話では数回煮出すことも可能らしいですが、ここでは3回やり、3回目が一番きれいな色が出ていました。

スギの染液 11月頃に採集したスギの生葉で染めた見本を見せていただいたのですが、これもソヨゴのような赤系統の色でした。

しかし何週間か前に染めたスギの生葉染はアルミ媒染できれいなレモンイエローで色が全然違って、講師のお話ではとってから時間がたったためではないかということなので、今回使ったスギの生葉は採ってすぐのものを使用しました。

しかし、やはり赤系の色が出ないため、たぶん今の時期はもう枝先に雄花を形成しているの、そちらの方に養分等が取られ、赤系統の色を出す成分が不足しているのではないかという結論に達しました。

これも2番までに出しましたが、こちらの方は煮出すほど薄くなっていくようです。

ウメの染液 これは樺色の染液が取れました。

② 染液を作っている間に木綿の布に太めの糸(木綿糸二本どり)で自分の好みの模様を縫い締め絞りで絞っていきます。

見本の作品は軍隊絞りという手法で、太めの糸で布を巻き縫いしていきます。糸を巻き縫いしていく過程で幅を太くしたり細くしたりすることで、大胆な模様を作ることができます。平縫いを何度も繰り返して引き絞ると連続の美しい模様が現れますし、縫い目の大きさを変えると模様に変化が生まれます。

いろいろ工夫を凝らすことで様々な模様が生まれてくるのも縫い絞りの楽しみの一つです。

参加者は草木染のベテランの人たちなので手の込んだ作品が多く、作業には比較的時間を費やしました。

③ 浸し染め

それぞれの染液に縫い締め絞りをした木綿布と濃染剤処理した木綿布を入れてしばらく置き、媒染液 (Al, Fe) に浸し水洗いを何度か繰り返し好みの色に染め上げていきます。

濃染剤処理して染めたものは次回 2 月の最終講座での抜染用として使用します。

木綿布が染め上がったら最後にシルクストールを染めました。

ソヨゴ、スギ、ウメを使った作品は全体に濃い色は出ませんでした。ソヨゴ (Al) からは浅緋のような色や杉の葉からこんな色が出るのかと思うような優しい黄色が生まれました。梅も Fe で桃色がかった薄茶色に染まりました。

自然の植物を使った草木染は種類やその植物を採取する時期によっても色が変化しますし、媒染剤や染液の濃淡でも様々な色が生まれます。

身近な植物からこんな美しい色が生まれてくるのかと参加するたびに感動を覚えます。

2 月の講座も楽しみです。

【講師】 奥村 中野、矢吹 (アシスタント)

【参加者】 小川、桜井、瀧浪、廣川、前田、臼井

【報告者】 臼井治子



スギの染液に布を浸す



ソヨゴ媒染液



ウメの枝の染液



Al 媒染



Fe 媒染



参加者の作品